

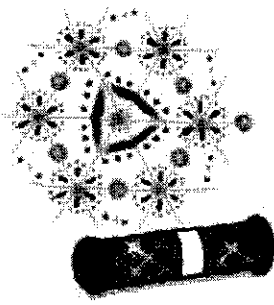
八月のテーマ

どう見るか

多面的だから面白い

丸山竹秋

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所会長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことは掲載します。



え・たむらかづみ

ア ちだなア。人に奢ったこともなく、祝儀や香典なんかも並外れてすくないんだ。へんなやつ」と言われていたある人が、年をとってから、それまでケチケチとためてきた大金を、ポンと福祉施設に寄付をした。そして自分は清貧の暮らしを続けている。「あんな口悪婆さんが」と言われている人が、その実、意外にもたいへんな温情家だった。

何でもハイハイと受けるので、「とてもスナオだ」と思われている人が、あるときには、とんでもない強情ぶりを発揮してテコでも動かず、皆を困らせた。

短所の裏には長所があり、美点の裏には欠点もひそむ。ずるい人が、案外正直であったり、正直な人が、案外頑固で、融通がきかず、迷惑をかけることもある。

たんに性格上の面だけではなく、善悪の面についても、健康不健康の面についても、長い間にはさまざまに変化をみせたりして、いったい、どれが本当なのかと戸惑わせる。

これらは他人事ではない。自分自身でそうではないか。いわゆる倫理

的でない面も多々あるであろう。喜んで働こうとしても、つい怠けたり、気をぬいたりする。しかし反省をして、まじめに働きます。愛したかと思ふと憎んだり、また反省をして穏やかになったり…。非倫理的な面も多いが、倫理的なところもある…といった具合ではないか。どれもこれも事実であり、本当なのだ。

ということは、人の一面だけにとられて、他の面のあることを見失うなどということであり、生き方をあらため、改善に意を注げば、よい面が現われ、いい気になったり、つけ上がったたり、油断したりすると、いつでも転落するということだ。これはあたりまえのことばかりだ。しかしながら、現実は今現われている面にとらわれることが多く、他の面を見失って、争ったり、喜びすぎたり、嘆き悲しんだり、迷うことが多いのではなからうか。

実はこうした多面性は、人生そのものについても言えることであり、大にしては宇宙大自然そのものについても同様なのである。真理はどこまでいっても不変である。しかし、

この世に現われた面（現象面）は、すべて長い間には変わっている。四十五億年前（？）の地球の誕生、五十億年先（？）の太陽系の消滅なども、宇宙の変化の一つにすぎない。恐竜どもが覇をきそつていた地球に、今や人間どもが勢力を誇っているが、さてこの先はどうなることか。

人生もその通りである。若い時の考えは老いてから変わることもある。思想や行動や、そして暮らしむきや、健康不健康などについても、成功や失敗や、いろいろな面をもちながら、人生は変化する。

広く人生全般にわたって成功ばかりしていたのでは面白くはない。失敗するかもしれないと用心し、またついに失敗したという時点で、「しまった」「これではいけない」などと反省し、緊張を新たにすから面白いのだ。ドラマを見て、すべてがよいことづくめ、喜劇ばかりでは面白くあるまい。人生はまさにそのドラマだ。多面的なのだ。だから人生は高く大きく、味わい深く面白いのである。

『あなたは生命の元を見つけたか』より